

‘さちのか’の空中採苗による小型成型苗の挿し芽時期，培養土，施肥管理について，香川型イチゴ高設・バッグ式養液栽培（Strawberry substrate culture system of Kagawa）で検討した。

- 1) ‘さちのか’の苗の採取数，挿し苗の活着状態は，‘女峰’と同程度で，苗数の確保に関しては問題なかった。
- 2) ‘さちのか’の小型成型苗において，早期から収量を高めるためには‘女峰’以上に挿し芽後の育苗日数を確保する必要がある。そのため，普通促成，夜冷促成栽培の両作型ともに育苗期間は 70 日前後が適していると考えられた。
- 3) 小型成型苗の培養土は，小型ポット用イチゴ専用培土とピートモスとロックウールの等量混合培養土の 2 種類で比較した結果，育苗期の生育，収量ともに小型ポット用イチゴ専用培土が良好であった。
- 4) 普通促成栽培では，挿し芽時の苗の大小に関わらず，育苗日数確保による苗の充実と 8 月 20 日からの窒素中断を目安とした肥培管理によって，花芽分化の安定と早期からの収量向上が図られた。

キーワード：イチゴ，さちのか，小型成型苗，挿し芽，花芽分化